

農業技術 プリズム

青枯病は、トマトやジャガイモなどナス科をはじめ200種以上の植物に感染し、枯死被害を及ぼす土壌病害で、一度圃場(ほじょう)が汚染されると、病原菌を除去することは困難です。

県はジャガイモの青枯病抵抗性品種を育成するため、汚染圃場で実際に栽培して抵抗性の程度を確認してきました。

しかし、気温などの環境条件や土壌中の菌密度が検定結果に影響し、青枯病が発生しやすい秋作でしか試験ができず、試験可能な個体数も限られます。

そこで、ジャガイモにおいて環境条件に左右されない室内で、一度に数多くの青枯病抵抗

性程度を確認できる検定方法を開発しました。
この方法は、温度などの環境条件が一定に保たれた試験管の

ジャガイモの青枯病 抵抗性品種めざして 室内検定法で迅速化

ジャガイモにおける青枯病抵抗性検定法の比較

比較項目	室内検定	圃場検定
環境条件(天候、温度など)による影響の有無	無	有
検定可能な時期	年中可能	秋作だけ
評価に必要な期間	3カ月	3年以上

短3カ月で検定可能になります。

また、季節を問わず一年中、検定が可能です。今後、この技術を利用して効率的な青枯病抵抗性品種育成を目指します。

(県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 花き・生物工学研究室 波部一平)

中で、無菌培養の植物体を育成。青枯病菌を接種して行います。そのため、圃場検定では最短で3年かけて評価していたものが、室内検定法を用いると最